

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年7月20日

【評価実施概要】

事業所番号	10724000276
法人名	株式会社オギノ電子工業
事業所名	グループホーム スマイル
所在地	群馬県甘楽郡下仁田町大字西野牧5803-1 (電話) 0274-84-2611

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7群馬県公社総合ビル5階
訪問調査日	平成21年6月16日

【情報提供票より】(21年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 12 月 1 日
ユニット数	1 ユニット
職員数	11人
利用定員数計	9 人
常勤	7 人
非常勤	4 人
常勤換算	7.9

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	階建ての 階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	43,500 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

(4) 利用者の概要(6月1日現在)

利用者人数	8 名	男性	0 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	7 名		
要介護3	0 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低 81 歳	最高 91 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	下仁田厚生病院 ・ 大沢クリニック
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「私たちは地域と共に笑顔あふれるグループホームをめざします」という理念を掲げ、管理者と職員は連携を密にしなが、前向きな姿勢でケアの実践に取り組んでいる。利用者一人ひとりがその人らしく暮らせるよう、思いや意向の把握に努め、家事や趣味等で自分の力を発揮してもらえる場面づくりをし、温かく見守りながら支援している。町主催の「健康祭り」に参加し、認知症の理解・広報に努める等、町の担当者や地域住民と積極的に交流を図っている。納涼祭には家族や地域の人々・ボランティア等が多数来訪し、親睦を深めている。清潔に整えられた室内は、採光も十分で開放感があり、落ち着いた良質な装飾がなされている。川のせせらぎが聞こえる静かな環境に立地しており、ホームの窓からは、里山の景色が眺められ、四季を感じられる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>地域密着型サービスの理念については、職員で話し合い事業所独自の理念をつくりあげている。現状に即した介護計画の見直しについては、月1回モニタリングを行い、3ヶ月に1度と状態の変化に応じて実施している。入浴を楽しむことができる支援については、入浴の曜日や時間帯が決められており、改善されていない。水分確保の支援については、利用者全員の摂取状況を記録し、職員が情報を共有しながら支援している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価については、全職員に意見を聞き、まとめたものを管理者が記載した。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は(2月末開催を除き)、2ヶ月に1回開催しており、サービスの状況や評価への取り組み等について報告を行い、活発な意見交換が行われている。委員から出された意見等はサービスの向上に活かしている。ホーム便り「スマイル」に会議の報告を記載している。町の担当者に会議録を届けている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>年3回、ホーム便り「スマイル」を発行し家族へ配布している。運営推進会議時や家族等の来訪時には、話しやすい雰囲気づくりに留意し、意見や苦情等を聞くように努めている。苦情受付窓口(管理者)が明記されており、出された意見や要望等には、職員間で話し合い、運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣の人達には散歩時に挨拶をしたり、野菜を頂くこともある。地元の保育園児や小学校の児童、近隣の人達の訪問がある。地元の祭りや町主催の「健康祭り」等に参加しており、日頃から地域住民との交流に努めている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所がめざす地域密着型サービスのあり方を端的に示した、独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は申し送り時等で理念に触れ、共にケアの方向性を確認している。日々の生活の場において、理念の実践に向けて取り組んでいる。ミーティングの場所に理念を掲示している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の人々には散歩時に挨拶をしたり、野菜を頂くこともある。地元の保育園児や小学校の児童、近隣の人達の訪問がある。地元の行事(祭り)や町主催の「健康祭り」等に参加しており、日頃から地域住民との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は評価の意義を理解しており、自己評価については、全職員に意見を聞き、まとめたものを管理者が記載している。外部評価の結果についても、職員と話し合い具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は(2月未開催)を除き、2ヶ月に1回開催されている。サービスの状況や評価への取り組み等について報告し、話し合いを行っている。委員から出された意見等はサービスの向上に活かしている。ホーム便り「スマイル」に会議の報告を掲載している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当者は運営推進会議に出席していないので、会議録を届けたり、ホーム便り「スマイル」を届ける等、町の担当者と行き来する機会をつくり、ホームの実情を伝えたり取り組みを協議している。町主催の「健康祭り」に参加し、利用者の作品やグループホームの説明等を掲示し、認知症の理解・広報に努めている。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年3回、ホーム便り「スマイル」を発行し、行事や生活の様子等を家族等へ報告している。家族等の来訪時には、利用者の健康状態や生活状況等を報告している。身体状況等の変化については、随時電話にて連絡を取っている。金銭管理の報告は定期的に行われている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族等の来訪時には、話しやすい雰囲気づくりに留意しており、苦情や意見を聞くように努めている。苦情受付窓口(管理者)が明記されており、出された意見や要望等にはミーティングで話し合い、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者への不安やダメージに配慮し、職員の異動や離職は最小限に抑えるよう努めている。代わる場合には、利用者・家族等に紹介し、一週間位(夜勤は3回)先輩職員が基本的な対応の仕方等を指導しながら共に支援にあたり、スムーズに移行できるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践者研修、認知症高齢者の理解と基本的なケア、救命救急講習等に職員が参加している。研修参加者はミーティングで報告を行い、資料は全員で閲覧し共有化を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入している。大会に参加したり、南部ブロックの研修会や意見交換等の活動を通じて同業者と交流する機会を持ち、サービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人・家族等と面談を重ね、信頼関係を構築するようにしている。見学をしながらホームの雰囲気・様子等を見てもらい、職員も自宅を訪問し面談を行い、納得して利用できるよう支援している。入居後も職員が寄り添ったり、電話で家族の声を聞いてもらう等、一人ひとりに合わせた対応をしながら徐々に馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と共に生活しながら、人生の先輩であるという気持ちを持って接しており、日常の生活場面で、格言や昔の歌、和裁、饅頭作り等、教えてもらうことも多い。共に支えあう関係づくりに留意している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の言葉かけやふれあいの中で、本人の言葉や表情、行動等から真意を推し量るようにしている。家族等からも情報を得るようにしており、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族等から意向確認を行い、介護計画に反映させるようにしている。ミーティング時に毎月モニタリングを行い、職員全員で話し合い、それぞれの意見や気づきを反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヶ月に1度と状態の変化に応じて実施している。職員間で話し合い、本人・家族等に確認しながら、現状に即した新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族等の希望や状況に応じて、受診・通院や買物等必要な支援は柔軟に対応している。また介護予防共同生活介護、認知症対応型通所介護、医療連携体制等の指定を受け、利用者への柔軟な支援はもとより、近隣の高齢者等が利用できるようグループホームの多機能性を強化している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族等の意向を確認し、利用者全員が希望するかかりつけ医で適切な医療を受けている。基本的には家族同行での受診・通院を行っているが、家族等の状況に応じて職員が同行した場合には、受診結果を報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合における対応に係る指針」を作成している。家族等ならびに医師、看護師等と話し合い、その時々々の家族等の意向を確認しながら1名の看取りを行った。今後は重度化や終末期のあり方についての具体的な見直しが必要と考え、現在看護師を中心に家族等・医師、職員等で検討中である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけや対応等で一人ひとりの尊厳を傷つけないよう、ミーティング等で折に触れ職員に伝えている。記録等の個人情報の取り扱いに関しては、秘密保持の徹底を図るよう努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調やその時の気持ち等を尊重しながら、起床や就寝時間、食事の時間、散歩、買物、合唱、掃除、レクリエーション等、その人のペースで過ごしてもらえるよう柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
tok					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は力量に応じて、調理や後片付け等、職員と一緒にやっている。利用者の好みを把握し、職員が献立を作成している。畑で収穫した野菜は、食材として調理されている。利用者と職員は同じテーブルを囲み、楽しく食事ができるよう支援している。週1回、おやつ菓子や飲み物等を選べる場面づくりをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には、夏季に3回(月・水・金)その他は2回(月・金)、午後に入浴支援を行っている。体調等に応じて清拭や足浴等を行っている。言葉かけ等の工夫により、楽しく入浴できるよう支援している。	○	曜日や時間帯を職員の都合で設定せずに、一人ひとりの習慣や好みをよく聞いて、相談しながら希望に沿った入浴支援をしてほしい。
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴を把握し、雑巾がけ・洗濯物(干し・たたみ)・草むしり・野菜の収穫等、楽しみながら継続できるよう役割の支援をしている。縫い物・読書・音楽鑑賞・テレビ鑑賞・リハビリ体操・誕生会・納涼祭・ボランティアの訪問等で楽しみごと・気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	屋外のベンチで日向ぼっこやお茶飲みをしたり、天候や利用者の体調・希望に応じて、散歩・ドライブ・買物・季節の花見・外食等に出かけており、日常的に外出支援が行われ気分転換が図られている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、職員の見守りにより利用者の安全を確保しながら、日中は玄関に鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	1ヶ月に2回、利用者と職員でホーム独自の避難誘導訓練を実施している。ホーム長が防火管理者になっている。運営推進会議において地区区長を通じて、地域の人々に災害時の協力を依頼している。夜勤時の緊急対応マニュアルを作成し、周知徹底を図っている。	○	ホーム独自の避難誘導訓練は行われているが、リスク管理の観点から初期消火の重要性を考慮し、消防署の指導の下で、消火訓練等の実地訓練をしてほしい。また、災害時に地域住民の協力を得られるよう、具体的な協力体制づくりに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスのとれた家庭料理を基本に提供している。食事量や水分量はチェック表に記載し、職員は情報を共有しながら支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内は家庭的な雰囲気、美しい季節の花を飾り、落ち着いた良質な装飾がなされている。ホールは吹き抜けで明るく、木の温もりが感じられる。テレビやゆったり休めるソファを配し、壁面には季節感のある利用者の作品等を掲示しており、居心地よく過ごせる共用空間が確保されている。ホームの窓からは、里山の景色が眺められ四季を感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、畳、箆笥、衣装ケース、シルバーカー、写真、時計、縫いぐるみ等馴染みのあるものや好みのもが持ち込まれており、本人が落ち着いて過ごせる場所となっているように見受けられた。		